

新刊書のご案内

コロナ禍のデジタル化!

ヒト不足やコストの折り合いがつかずに**停滞していませんか。**

経営のイロハをDX化する 「開発しないシステム」 導入のポイント

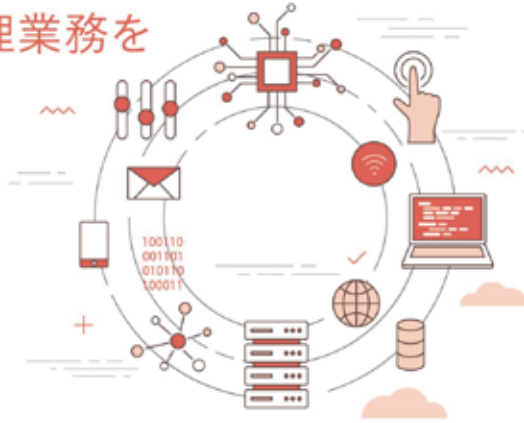
パッケージで、管理業務を
早く・安く改善

公認会計士
広川 敬祐 (編著)

公立はこだて未来大学 教授
大場みち子 (監修)

株式会社NTTデータ経営研究所
木村 俊一 (監修)

板井 実 / 緒方 瑛利 / 高橋 昌太郎 / 倉本 真司 / 東 義弘
秋元 隆 / 渡辺 康雄 / 植木 貴三 / 上條 英樹 (著)



Amazonでのご購入はこちら!



目次

- 第1章 パッケージソフト導入の失敗事例とその原因
- 第2章 ここが違う、「開発しないシステム」の導入事例
- 第3章 開発しないシステムの導入のポイント
- 第4章 開発しない会計システム
- 第5章 開発しない人事管理システム
- 第6章 テレワーク時代のシステム
- 第7章 グループ経営管理とガバナンス
- 第8章 本番稼働準備とメンテナンス
- 第9章 開発しないシステムの効果とコスト

経営環境の激変を経てニューノーマルに向かう今、企業経営を支える経営管理システムは、自社開発によらず、グローバルなツール利用の合理性が納得できる1冊です。

株式会社CFOサポート 代表取締役
東京都立大学大学院
経営学研究所 特任教授
元・日本電産CFO

吉松 加雄氏 推薦!



ERPやクラウドサービスは、開発負荷を削減するためのツールではなく、そのまま利用できるものです。それがコスト削減と利用効果をもたらします。

ジャパンSAP
ユーザーグループ・
経営管理部会 部会長

泉川 邦充氏 推薦!



中央経済社

出版記念セミナー開催!

コロナ危機下の企業変革
吉松 加雄氏

株式会社CFOサポート 代表取締役兼CEO
元・日本電産CFO

「開発しないシステム」導入のポイント
広川 敬祐氏

ヒロ・ビジネス株式会社 代表取締役
公認会計士 情報システム学修士

CTCの「作らない基幹システム」
山下 俊一郎氏

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
流通ビジネス企画室 ERPソリューション推進第2部長

詳しくは
裏面へ



早く・安くIT投資効果を実現する 開発しないシステムで コロナ禍のデジタル化を推進するためのセミナー

この1年、経済はコロナ禍に明け暮れてしまいました。反面、コロナによって改革が進んだとこともあったのではないかと思います。例えば、テレワークや働き方改革はかねてより推奨されてきましたが、コロナによって一気に加速しました。

DX(デジタルトランスフォーメーション)が提唱されて数年以上が経過しています。コロナによって企業がDXを推進していかななくては生き残れない“改革待ったなし”の時代になりました。しかしながら、DX化を推進していこうにもヒト不足やコストの折り合いがつかずに停滞してしまっている事案を見受けまます。それはDXを開発するシステムで実現しようとしているからです。

本セミナーでは、元日本電産CFOの吉松様に「コロナ危機下の起業変革」をご紹介するとともに、パッケージやクラウドサービスといった「開発しないシステム」でDX化を早く・安く実現する方法をご紹介しますので、皆さまの多数のご参加をお待ち申し上げます。

主催・共催 ヒロ・ビジネス株式会社 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社(略称CTC)

| | |
|------------|--|
| 開催日時 | 2021年4月16日(金) 13時30分~16時 |
| 会場 | オンラインで開催 |
| 参加費 | 無料 |
| 申込 & 問い合わせ | ホームページまで https://www.candp.biz/seminar0416/ |



~セミナーでのご紹介内容~

コロナ危機下の企業変革

吉松 加雄 株式会社CFOサポート 代表取締役兼CEO
元・日本電産CFO

コロナ危機による経営環境の劇変に直面したこの一年、多くの企業は変革を求められてきたのではないのでしょうか。2008年度のリーマンショックと2012年度の主力製品の需要急減に対応した構造改革をリードし実行してきた経験をもとに、想定外の事象が同時多発で起こってきた企業経営においてナビゲーションを求められる経営企画やCFO部門の企業変革推進に資する内容をご紹介します。

プロフィール

株式会社CFOサポート代表取締役社長兼CEO、東京都立大学大学院 経営学研究科 特任教授、ホンザキ株式会社 社外取締役、株式会社ミクシィ 社外取締役、一般社団法人日本CFO協会 主任研究委員、元日本電産取締役専務執行役員最高財務責任者。三菱電機の欧・米・亜の現地法人、サン・マイクロシステムズ、エスエス製薬、等のCFOを歴任後、日本電産取締役専務執行役員最高財務責任者を経て現職。慶應義塾大学経済学部卒、スタンフォード大学経営大学院修了(経営学修士)

「開発しないシステム」導入のポイント

広川 敬祐 ヒロ・ビジネス株式会社 代表取締役
公認会計士 情報システム学修士

ERPパッケージやクラウドサービスの導入において、多くの企業が追加開発(アドオン・カスタマイズ)はご法度との大方針を掲げてシステム構築を推進しています。しかしながら、その大方針に関わらず、実態は多くの追加開発を行う羽目になり、当初予定通りのコストに収まらず、本稼働時期を延伸せざるを得ない状況に陥る実態が多いものです。「開発しないシステム」導入のポイントをご紹介します。

プロフィール

大学3年で公認会計士試験(二次)に合格し、外資系監査法人での10年の経験を経た後、1994年にSAPジャパンに転職。退社後はコンサルト業で独立し、これまで本稼働に関わったERPは50社を超える。NTTデータ経営研究所で契約社員(2007年~2012年)として従事した経験も有する。2019年に東京都立産業技術大学院大学情報アーキテクチャ専攻を修了し、公立はこだて未来大学システム情報科学研究科博士後期課程で就学中。日本公認会計士協会東京会幹事。

CTCの「作らない基幹システム」Figures(フィグ)

山下 俊一郎 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
流通ビジネス企画室 ERPソリューション推進第2部長

システムに合わせて業務を効率化していくという方針や考え方はわかったけれど、結果として日々の業務や運用に支障をきたしては意味がありません。基本的に「作らない」。だけど、作るべきものは判断して作るし、作るものも作らないものも次々と変化していく事業環境やテクノロジーに迅速に、安全に対応していく必要があります。そのためのシステムアーキテクチャにはどのような要素があり、どのような考慮点があるのか。どんな道具が役に立つか、ではなく、どのように考えて使っていくかのポイントをご紹介します。

CTCの 取り組み

基幹システム(SoR)領域はできるだけ業務は標準化した方が良く、ほとんどの業務は提供されている製品サービスでカバーできるものです。とはいえ、マルチクラウドまたはハイブリッドクラウドで様々な製品サービスを組み合わせるときのときにどうしても避けて通れないものがあります。ユーザの使い勝手、教育の問題、差別化要因となる手作りシステムとの連携、分散データやプロセスの統合、ID管理や権限管理、契約管理なども複雑化してきます。CTCでは、これらの課題を解決する手段としてFigures(フィグ)というサービスを提供しています。